

なぜ縄文時代に戦争が起きなかったのか

立命館慶祥高等学校 2年 田代 優月

1 研究経緯

縄文時代は戦争のない平和な時代だったとされている。図1は三内丸山遺跡（青森県）、図2はフルスト原遺跡（沖縄県）である。三内丸山遺跡は縄文時代、フルスト原遺跡は500年以上前の遺跡とされている。フルスト原遺跡はその時代の英雄の屋敷の跡地とされている。この遺跡の特徴は簡単に作れて、容易には崩れないように積み上げられた石垣が遺跡の周りを囲っていることである。しかし、三内丸山遺跡は周辺を柵で囲っていた形跡は見つかっていない。また、縄文時代の遺跡とされている所からはそのようなものは見つかっていない。このことから縄文時代に戦争がなかったと考えられる。私も、この説は正しいものだと考えている。だが、戦争が起きなかった原因については明確に分かっておらず、いろいろ調べてみても納得のいくものが見つからなかった。そのため自分なりの仮説を立てて、研究してみようという考えに至った。



図1 三内丸山遺跡



図2 フルスト原遺跡

2 仮説

私は、縄文時代の人々は戦争を起こす体力（食料や人手）がなかった、または足りなかったのではないかと考えた。縄文時代の人々は自分が生活をするだけでも精一杯だったので、他の物事に割く余力がなかったという仮説を立てて、この考えが正しいものなのかについて検証を行った。

3 食料問題について

まず、食料の問題について調査した。それぞれの時代の生活様式を比較した。縄文時代は、狩猟・採集メイン、弥生時代は稲作メインの生活様式だったとされている。縄文時代は狩猟・採集生活がメインだったため、食料を一定以上の量を蓄えることはとても難しかった。また、多くの獲物を得ても長期間保存することが難しく、一定以上の量しか狩猟・採集してなかったのではないかと考えられる。しかし、弥生時代になると稲作がメインとなり、縄文時代よりも簡単に食料を蓄えられるようになった。米は長期間の保存が可能であり、米以外のものは狩猟・採集することによって、栄養のバランスが縄文時代の食生活と比べて良くなったのではないかと考えられる。



図3 縄文人の食料カレンダー

4 人手問題について

次に、人手の問題について調査した。それぞれの時代の平均寿命や死因などについて調べて、比較をした。縄文人の平均寿命はだいたい30歳前後とされている。しかし、図3・図4のグラフより10歳を超えるのは全体人口の約4割程度、30歳を超えるのは人口を約2割程度だった。死因については、女性にとっては出産が一番だとされている。また、成人病（がんや糖尿病など）は成人になる前に亡くなってしまふ縄文人がほとんどだったため、その病気がかかった骨はあまり見つかっていない。また、不安定な暮らしをしていたため栄養不足で亡くなってしまふケースも多かったとされている。弥生時代になると、稲作が伝わったことにより、生活が縄文時代より安定するようになったとされている。このことから、私は弥生人の平均寿命は縄文人より長くなっているのではないかと考えた。しかし、弥生人の平均寿命を調べてみると、30歳前後と縄文人とほとんど変わらないものとされていた。稲作が伝わり米が作られるようになって、天候や植物の生育状況により食料の確保が不安定な状況になっていることは変わらなかったため、飢餓によって亡くなってしまふ弥生人も一定数いた。また、戦争が生まれてしまったことにより、戦争によって亡くなってしまふケースも多かったとされている。栄養状態が縄文時代よりも安定したため、戦争など食料の確保をすること以外の物事にも人員を割くことができる余裕が生まれたのではないかと考えられる。

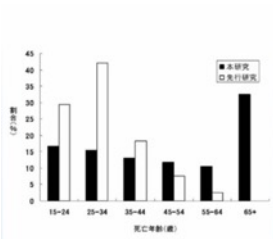


図4 縄文時代の死亡年齢

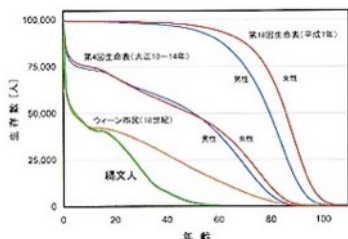


図5 縄文人の生存数

5 検証と考察

検証結果より、稲作が伝わったことによって収穫した後に溜め込んだ食料をめぐって戦争が生まれてしまったと考えられる。また、縄文人と弥生人の平均寿命が変わらなかった原因は、戦争が起きてしまった影響により、成人する前に亡くなってしまふ弥生人が多かったのではないかと考えられる。私がたてた検証をもとに検証を行った結果、弥生時代に戦争が起こった理由については、食料や食料を生産する土地が関係して発生したものということが分かったので、縄文時代に戦争が起きなかった理由については食料問題が大きく関係しているのではないかと考えられる。また、この出来事は日本だけの事例ではなく、海外でも起きているのではないかと考え、いつごろから海外でも戦争が発生したのか調べてみた。その結果、農耕が行われるようになった頃（約1万2000年前ぐらい）から戦争が起き始めていたとされている。したがって、農耕により食料問題が発生し始めたことにより、人類から戦争というものが生まれてしまったのではないかと考えられる。しかし、最近の調査により、縄文時代の遺跡から農耕している跡が見つかっている（図5より）ことから、縄文人も農業を行っていたのではないかと考えられている。縄文人は、アワ、ヒエなどの雑穀類やイモなどを育てていたとされている。縄文時代に穀物などを育てていたのにも関わらず、稲作が伝わった弥生時代から戦争が起き始めたのかということが大きな疑問として残った。もしかすると、米のもつ高い栄養価や、他の食料よりも長い期間保存しやすいという、とても優れている点が大きく関係しているのではないかと考えられる。



図6 縄文農耕の関連遺跡マップ

この日本地図には、縄文時代に農耕を行っていたことを証明している遺跡が記載されている。全国各地で行われていたことがこの地図からも読み取れる。植物の種子だけではなく、畑の跡も見つかっている。ヒョウタンが第2の主食として栽培されていたことも、種子や皮が遺跡から見つかったことにより、判明した。また、研究や発掘が進んだことにより、縄文時代の晩期頃から稲作を行っていたことが分かっている。稲作を1番初めに始めたこととされている所は、佐賀県の菜畑遺跡である。この遺跡からは縄文時代の水田跡が見つかっている。

5 まとめ

今回は、縄文時代と弥生時代のこと（食料・人手問題について）を比較し、戦争が起きた原因は食料問題が深く関わっているということを確認できた。次回、調査するときには心理学や哲学などの人々の精神についての観点で、戦争について調べてみると新しい発見やアイデアが生み出されそうなのではないかと考えられる。また、より深くこのことについて調査するときには歴史のことだけではなく、いろいろなジャンルの方向からみると詳しく知ることができるようになるのではないかと考えた。

6 研究を通して

私は、戦争が一ミリも起こらない平和な世の中に、なって欲しいと願っている。多くの人々も、戦争はとても残酷なもので起こしてはいけないことだと分かっている。しかし、それにも関わらず今でも戦争というものはなくならず、戦争によって被害に遭い苦しんだり、困っていたりしている人がたくさんいる。私は、このことについてとても悲しく思っている。そのため、私は戦争が一ミリも起きない平和な世の中にするための方法を模索していく前に、戦争が起きなかったとされている縄文時代について詳しく調査をし、起きなかった理由について明確に断定することができれば、平和な世の中につながる大きな一歩になると考える。なぜ、縄文時代に戦争が起きなかったのかについて研究することを通して、歴史上の知恵や工夫を学び、戦争のない平和な世界に少しでも近づけるように自分達にもできることを考え、微力ながらも取り組んでいきたい。

7 参考文献

苗木あみ著 縄文人がなかなか稲作を始めない件（2022年 12月30日 初版発行）
岡本裕一朗著 戦争と哲学（2023年 11月30日 初版発行）
原遙平著 徹底検証！日本古代史と考古学の謎（2001年 8月20日 初版発行）
山田康著 地図でスッとする縄文時代（2021年 11月25日 初版発行）
環境科学研究所 第30号
https://www.ies.or.jp/publicity_j/mini_hyakka/30/mini30
日本学術振興会
https://www.jpsps.go.jp/file/storage/grants/grantsinaid/31_result/data/jinsya/37_nagaoka.pdf
世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群
<https://jomon-japan.jp/learn/jomon-sites/sannai-maruyama>